

1月20日に開催された全日本遊技事業協同組合連合会の全国理事会において、警察庁保安課の廣田耕一課長が講話を行った。廣田課長は、「より健全な大衆娯楽としての位置付けを盤石なものとするために必要と考えられること」として、ノンユーザーの目線に立った取り組みの推進、のめり込みの問題のほか、中古機移動の問題などに言及した。以下に、要望の全文を掲載する。

## ② 店内ATMは多面的な検討を

2点目は、のめり込みの問題です。この問題に対応する機関として、先ほども触れましたが、貴団体の支援で設立された、ばちんこ依存問題相談機関「特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク」の活動があります。昨年4月、西村代表が警察庁にお立ち寄りの際にお話しを伺いましたが、この取り組みは、のめり込みという負の側面に正面から対処するものとして、継続していくことに意義があると云えます。リカバリーサポート・ネットワークは、昨年10月に特定非営利活動法人の法人格を取得され、昨年12月に開催された21世紀会において、貴団体から、当法人を支えていくことを提案されましたが、このような取り組みは評価すべきものであり、今後も、業界全体として引き続き支援されることを期待します。

当法人におかれましては、平成18年の設立以来、相談件数は年々増加しており、平成20年度は1年間で合計1187件の電話相談

があったということです。また、今年度は、昨年4月1日から12月末までに993件の電話相談があり、1ヶ月平均で約100件の相談が寄せられていることとなり、着実に実績を挙げられているところであり、しかしながら、依然として、ばちんこのめり込みが要因となって犯罪に走ったというような報道や児童の車内放置事故が散見されます。一昨年4月に鹿児島県下で発生した死亡事故に引き続き、昨年8月にも、秋田県下のホール駐車場内で、熱中症によると思われる死亡事故が発生し、母親が保護責任者遺棄致死罪で逮捕されるという事件に発展するなど、残念ながら2年続けてこのような事故が起きてしまいました。

他方、子供事故防止対策を徹底するために、貴団体においては、子供事故防止「強化月間」等を設け、各都府県方面遊協に対して周知徹底を継続して、ホール駐車場内の巡回活動等に取り

日から12月末日までに42件の事故を未然に防止されたと聞いています。また、昨年の死亡事故を認知した直後に「緊急通達」を發出して再犯防止を図っていることも承知しています。このような懸命な取り組みによって、被害が最小限に食い止めていると言っても過言ではないと思います。今後、業界内の対策として、徹底を図られ、今年の事故が0件となり、これを毎年更新していくことを期待しております。